

まきばの桜まつり復活

小林市の花は「コスモス」。年間来場者数20万人を誇る市の観光地「生駒高原」を代表する花として、広く市民に親しまれています。

そのコスモスと並び市の花木となっているのが「桜」。市内に桜の名所多しといえど、「なぜ？」と思う人もいるでしょう。

九州一の桜の名所。期間40万人の出入。ほんの50年ほど前のことです。全国に誇る桜の名所として栄えた桜並木が小林市にありました。それが「まきばの桜」です。

その「まきばの桜」が今年植栽100年を迎え、桜まつりが復活します。市の花木「桜」を代表する「まきばの桜」とは…。まきばの桜100年の物語にご案内します。

まきばの桜、100年前に遡る

まきばの桜はいつ、どこで、どのようにして生まれたのでしょうか。

今から100年前、日露戦争終戦後の明治41年、小林村は九州における馬の生産拠点として重要な役割を担っていました。陸上輸送・移動、農耕の多くを馬に頼っていた当時、馬の改良と育成は重要な国家事業として進められ、陸軍省の外局として軍馬補充部、内閣総理大臣直轄機関として馬政局が存在しました。現在の家畜改良センター宮崎牧場の場所（細野）には、軍馬補充部では九州唯一の支部である高原支部（現在の県畜産試験場・高原）の小林分厩と、南九州を管轄する馬政局国立宮崎馬所があったのです。小林市史・第三巻・戦後編（平成12年4月発行）によると、「牧場の桜」は次のように記述されています。『明治41年（一九〇八）、小林村細野地区に軍馬補充部小林分厩所が開設された。

「日向小林名所軍馬の櫻」と題された絵画。桜並木や軍馬のものとと思われる厩舎が見える。霧島商事所蔵。



当時の分厩所長であった二宮信中尉は日本のシンボル「桜」を牧場の沿道に植えた。（一部中略）

一方、さらに古い記録である小林町郷土史（昭和5年5月発行）においては、明治42年に二宮中尉が植栽にあたりたと記されています。しかし、桜千本とあわせ杉千本も植えたといわれ事業規模が大きかったこと、二宮中尉の上官で当時の高原支部長でもあった西端学中佐

Trace the history of Makiba no Sakura



多くの花見客でにぎわう「まきばの桜」。中央の看板は霧島よいと節レコード化をうたう美賞堂の広告。右端にはバルーンアートを手にした子どもやほんぼりが見られる。（海老原隆文さん所蔵）

九州一の桜並木を誇った30年

植栽から20年近くを経過して桜並木は大きく、見事に成長します。大正か

が桜を植えたという証言もあることなどから、明治41年には同支部内で植栽が始まっていたものと見られます。そして明治42年、初代分厩所長となった二宮中尉の指揮のもと、技手久保田峯男氏が植え付けの任にあたり、まきばの桜の原形となる「軍馬の桜」が誕生したのです。

ら昭和の初めには小林商工会が観桜会を開催。その後、一般に開放されると、桜のトンネル「軍馬の桜」として広く九州一円に知られ、「さくら祭り」は多くの人で賑わいました。実際に、門司鉄道局（現在のJR九州）が臨時増便を行い、花見列車を仕立てたほどの盛況ぶり。祭りは第二次世界大戦終戦前後に一時途絶えたものの、戦後、昭和22年に復活し、市史第三巻には、同年4月8日の「日向日日新聞」の記事が紹介されています。『軍馬の桜―今が見ごろ―県内第一を誇る小林町の「軍馬の桜」は七・八日が満開、宮崎交通の臨時バスも桜客で連日超満員の盛況、町内はこれらの花見客でゴツタ返し：』

また、敗戦により軍馬補充部が廃止されたことを受け、昭和23年に発足した小林商工会議所は「軍馬の桜」から「牧場の桜」に名称を変更。市史第三巻には同年3月29日の「日向日日新聞」が紹介されています。『九州一を誇る小林「牧場のさくら」は例年より一〇日も早く今が盛り、二七日から幕を開いたさくら祭りは久しぶりの快晴と土曜日とつづく絶好の条件に恵まれどっと押し寄せた花見客は郡内はもとより遠く鹿児島、宮崎、熊本方面からの団体客もまじり二日間で五万人：』

衰退の15年と失われた8年

およそ60年といわれるソメイヨシノの寿命。昭和30年代には、当初植えられた桜の多くがその寿命を超えていたと思われまます。

当初の千本から、市や市観光協会、市民の寄贈などによって補植や植え替えが重ねられたまきばの桜。その数は最大3千本を数えました。しかし、植えられた桜は思うように成長しませんでした。「ソメイヨシノは連作をきらう」。いみじくもそのことを証明するかのようになり、老木と若木が増えるばかりで、景観の衰退に歯止めはかかりませんでした。そして昭和48年、天皇皇后両陛下をお迎えした全国植樹祭や宮崎自動車道建設工事も重なり、さくら祭りは中止となったのです。

まきばの桜の衰退とともに、小林の観光は昭和38年に開業した生駒高原コスモス園などへとシフト。まきばの桜はしだいに「過去」のものとなりました。

桜並木復活に かけた27年

しかし、「まきばの桜」はけっして市民の記憶から消えていませんでした。昭和55年、旧市制30周年を記念して募集された市の木として、市の花に選ばれたコスモスと並び「桜」が選ばれたのです。

これを受けて、小林青年会議所が観光開発と市民のコミュニケーションの増大を目指して「まきばの桜まつり」を再開。「小林を日本一の桜の街に」をスローガンにその運動を発展させ、全国で7番目といわれる「小林さくらの会」の設立へとつながりました。

設立時の会員は、同会議所や小林ロータリークラブ、小林ライオンズクラブ、小林商工会議所、市造園組合といった5団体のほか、一般市民などを含め約300人。設立時から参加して

左] 小林さくらの会の会長を務める海老原隆文さん。



下] 今年2月10日、約100人のボランティアが参加して行われた「まきばの桜」手入れ作業。



まきばの桜まつり

- 期日：3月29日（土）から30日（日）
- 場所：小林市 細野 牧場（マップ参照）
- 主催：まきばの桜まつり実行委員会
- 内容：物産展や屋台村、ステージイベントなど
- 時間：①29日10時～記念式典およびステージイベント。物産展、屋台村、バーベキュー（前売1,500円）など。②29日20時～100周年記念花火 ③30日10時～ステージイベント、物産展、屋台村、バーベキュー（前売1,500円）など。 ※予定です。詳しくはポスターやチラシをご覧ください。【問 商工観光課 Tel.23-1174】



- 会場周辺の駐車場は数が限られています。まつり期間中は相当の混雑も予想されます。できる限り乗り合いでのご来場をお願いします。
- まつり期間中、会場周辺では交通規制が行われます。誘導案内看板や警備員の指示にしたがって会場へお越しください。
- 近隣住民の皆さまには、期間中ご迷惑をおかけしますが、できる限り支障のないように努めますので、ご協力をお願いいたします。

2006年3月29日のまきばの桜



いる海老原隆文さん(77)はこう振り返ります。

「桜まつり復活を通して、市民一体となったまちづくりにつなげたい。そういう思いがありました。そこで、小中学校の卒業記念に桜の苗木を配ったり、官公署などに桜を植えたり、広く取り組みを進めました。市全体として機運が高まったこともあり、現在、市内で見られる桜は、その時代に植えられたものが多いと思います。いい桜の情報を知れば、苗木を求めて全国各地を飛び回ったことも。しかし、中心となるべきまきばの桜並木は、もう限界に達していました」

桜がダメなのにまつりをやってもしょうがない。後に小林さくらの会の会長となった海老原さんは、桜並木の再生へと、その活動の中心を移行させることになりました。

昭和63年からは市の事業として整備が進められ、平成9年には故佐藤茂人氏(細野)から1千万円の寄付があるなど、土壌改良をはじめとする抜本的な再生が進展したまきばの桜。小林さくらの会を中心とした手入れ作業も続けられ、ここに来てようやく生長できる環境が整った桜並木は、健やかにその枝を伸ばし始めました。「桜、特にソメイヨシノはとてもデリケートな植物。連作をさらったり、テ

「サクラ咲く」 百年目の春

また、喜寿を迎えた海老原さんはこうも話します。「最後に植えられた桜も3年以上が経過し、これからさらに大きく生長していくことでしょう。次に生まれ変わる必要があるのは私たちなかもしれません。50代以下の人で、まきばの桜のにぎわいを知る人は少ないと思います。若い人たちが積極的に保護活動に参加してくれたらうれしいですね。多くの市民に愛されて初めて、まきばの桜は本当の復活を果たせるような気がします」

まきばの桜、百年目の春。一世紀におよぶ盛衰を経て、様々な思いを詰め込んだ蕾たちが、もうすぐ花開こうとしています。